

トマトの夏秋作型における「麗月」の特性について

～「麗月」のメリット・デメリットを把握したうえでの導入を～

神林 明弘（新城設楽農林水産事務所農業改良普及課）

【2022年5月執筆、2024年2月掲載】

【要約】

愛知県北設楽郡設楽町のロックウール夏秋トマト産地において、裂果が少なく日持ちの良い品種「麗月」の導入に向け、慣行品種の「りんか409」と特性の比較を行った。その結果、「麗月」は天候不良時でも着果が安定し、果形が良く裂果が少ない一方、草勢が抑えられ、やや小玉で、花房間長が長い等の特性が明らかになった。導入の際はこれらの特性を踏まえるとともに、今後は「麗月」に適した養液管理技術、収量向上技術を検討する必要があると考えられた。

1 はじめに

夏秋トマトは愛知県内の中山間地域において主要な品目で、設楽町内のトマト産地では、ロックウール栽培により6月から12月にかけて「りんか409（株式会社サカタのタネ）」を出荷している。近年、果実硬度が高く日持ちが良い特性を持つ「麗月（株式会社サカタのタネ）」の導入について、市場から強い要望を受けたことから栽培の意向が出ていたが、「麗月」の栽培上の特性が明確ではなかった。そこで、「りんか409」と「麗月」の生育を比較し、特性を明らかにしたので報告する。

2 調査内容及び調査方法

(1) 試験区の構成

	品種	台木	定植日	収穫期間	摘芯
試験区	麗月	アシスト	4月2日	6月中旬～12月上旬	10月上旬
慣行区	りんか409	なし(自根)	3月30日	6月中旬～12月上旬	10月上旬

(2) 栽培概要及び調査方法

調査期間 令和3年3月～12月

調査株数 各区10株

施設：屋根型単棟ハウス（540m²）、ロックウール栽培

給液システム：スイコーロボ（株式会社誠和。）

苗：グローブロック苗（1本仕立て）（トヨタネ株式会社）

栽植密度：2,000株/10a

3 結果

(1) 給液及び排液の濃度

両区ともに、給液ECは生育初期が1.0mS/cmで、その後徐々に高め、収穫が始まった6月中旬以降は1.5～1.7mS/cmで管理した。一方排液ECは、6月中旬以降「りんか409」で概ね2.0mS/cmであったのに対し、「麗月」では2.0～2.5mS/cmとやや高かった（データ略）。

(2) 生育及び収量

調査結果を表1に示した。「麗月」は「りんか409」に対し、花房間長がやや長く、開花花房直下の茎径はやや細かった。一方、開花4週間後になると、茎径は両区ではほぼ同等となった。

「麗月」の着果状況は、「りんか409」に対し株あたり総花房数では同等であったが、花房当たり着果数はやや多くなった。特に、7～8月に曇雨天が続いたのち急激に天候が回復した時期に「りんか409」では花質が悪化し着果不良が発生したが、「麗月」は着果が安定していた。一方、「麗月」の果実重は「りんか409」よりやや軽かった。

収量は、「りんか409」で生育中にトラブルが発生したため、「りんか409」のデータは得られなかった。気象条件等が異なるため参考ではあるが、令和2年実績と比較すると「麗月」は「りんか409」に対し93%の収量であった。

表1 品種による生育及び収量の違い¹⁾

	花房 間長 (cm)	茎径(mm) (開花花房直 下)	茎径(mm) (開花4週間後 花房直下)	総花房数 (花房/株)	着果数 ²⁾ (果/花房)	果実重 ³⁾ (g)	収量 ⁴⁾ (t/10a)
麗月	29.1	6.4	9.8	19	3.1	157.5	16.2
りんか409	26.5	8.2	10.1	19	2.8	166.8	17.4

1) 総花房数、収量を除く各項目は、1作の平均値で示した。

2) 摘果後の1花房当たり着果数。ただし、観察時点での規格外果や障害果等を除く。

3) 各花房での最大果の推計。果重の推計は、果実の縦・横の長さ重量の相関から計算した。

4) 「りんか409」の収量は令和2年作(4/2定植)。

(3) 麗月に関する意見

調査農家やその他に「麗月」を栽培した生産者3名からの意見、生育調査時に気づいた点を表2にまとめた。裂果が少なく果形が良いことで秀品率が高い一方、茎が細い傾向で果実が小さく、摘果が必要という意見があった。また、花飛びが少なく着果が安定している一方で、自然落果が発生するという指摘があった。

なお、市場からは果実が硬く日持ちが良い点が評価されている。

表2 「麗月」に対する生産者の意見

	長所	短所
生育	・群落の繁茂は「りんか409」と同程度	・茎が細くなりやすい ・着色開始期までの日数が長い
着果性	・長雨や夏期の高温時に花飛びが少なく、着果安定	・果実が自然落果することがある
果実品質	・裂果が少ない ・果形が良い	・果実が小さい(摘果が必要)

4 まとめ（考察）

調査等で明らかになった「麗月」の特性として、「麗月」は「りんか409」に比べ、長雨や高温といった天候不良時でも安定した着果が見込めると考えられた。また、「麗月」は小玉傾向ではあるものの、裂果が少なく、果形が良く秀品率が高いこと、市場評価が高いことが販売上有利な点だと考えられる。

一方、ロックウール栽培で「りんか409」と同様の養液管理を行ったところ、「麗月」の排液ECが「りんか409」より高かったことから、「麗月」は吸肥量がやや少ないと考えられた。このため茎の太りが緩やかで草勢が抑えられ、果実が小玉になるとも考えられた。この他、開花から着色開始期までの日数がやや長く着果負担が大きいことも、草勢を抑える要因と思われた。

また、「麗月」は花房間長が長いことから、主枝の誘引回数が増えて作業性が低下すると考えられた。

今後は、これらの特性を踏まえ、等階級別収量、作業性を精査し、経営評価を行うことによって、「麗月」の導入を検討する必要がある。また、「麗月」に適したロックウール栽培の養液管理技術や収量向上に向けた栽培技術の開発を行う必要がある。